

●入力感度／インピーダンス:0.24mV／4Ω、12Ω、40Ω(フォノ・MC)、2.2mV／47kΩ(フォノ・MM)、200mV／47kΩ(ライン)●使用真空管:PCC88(7DJ8)×4●寸法／重量:W380×H100×D305mm／10kg●写真・価格はフォノイコライザー搭載モデル。他にライン入力専用モデルEAR868L(¥698,000)あり。バランス入出力HOT=2番ピン●問合せ先:ヨシノレーディング株式会社050(3375)3975

EAR  
EAR868PL  
¥980,000

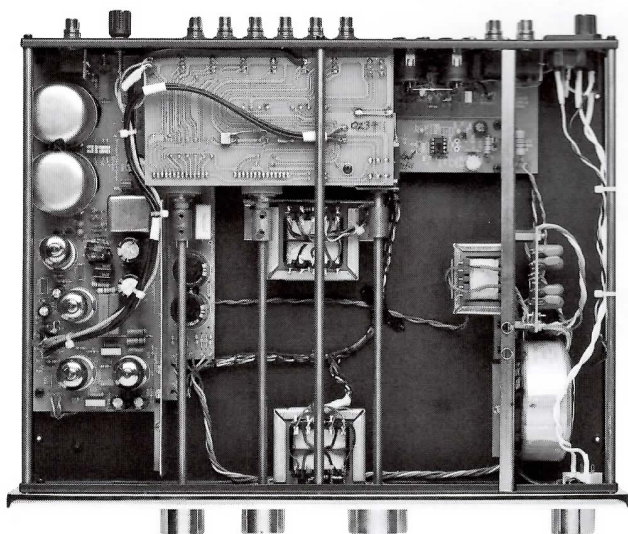


艶やかでインテイメート。歌声が優しく愛らしい  
最上位機の回路を踏襲したEARの管球式プリアンプ。ライン専用機とフォノイコライザー搭載機を用意——和田博巳

英国EARから、キング・オブ・チューブの異名を持つパラビチーニ氏の最新管球式プリアンプEAR868(PL)が登場した。本機はプロ仕様の最高級プリアンプ、EAR912で採用した独自の回路を惜しみなく投入したモデルで、EAR912の絶品の音色がふんだんに楽しめる家庭用プリアンプと紹介されている。

プリアンプをマークレビンソンNo.532として、まずはSACD／CDプレーヤーからプリアンプまですべてアンバランス接続した音を聴く。帯域を欲張った感じのない肌触りのよい音で、女性ヴォーカルのマリア・ヒタ『ELO』は、肩の力を抜いた優しく愛らしい歌声がスツと体の中に入ってくる。

次にSACD／CDプレーヤーと本機をバランス接続とすると、マリア・ヒタの歌声はわずかだがニュアンスも説得力も増えた印象。さらにプリアンプまで含めて、すべてバランス接続とすると、歌声はいつそう親密になり、バックのピアノトリオもより存在感を増すが、そこに音色の派手さや硬質感が現われることは一切ない。ただしアンバランス接続がよくないということではなく、バランス接続と比べるとさりと洗練された味わいのアンバランス接続も、曲によってはまったく悪くないと思う。EAR868PLをボリュウム全開にしてトゥイーターに耳を近づけても、ノイズ極小だったことにはビックリだった。本機が聴かせるのは、超ワイドレンジとかサウンドステージ広大という世界ではないかもしれないが、



フォノイコライザー搭載モデルの内部。増幅部は左側に置かれ、リアパネル側に円筒型のシールドケースに納めた昇圧トランスを配置する。



出力はアンバランス、バランスともに各2系統用意。フォノ入力 of MM/MC ゲイン切替は、端子左側のプッシュボタンで行なう。



## ニュアンス豊かで生々しい フォノイコライザー入力

今回用意されたのはフォノイコライザー搭載モデルだったので、そもそもチエックしたが、自慢のMCトランスを介したアナログレコードの音は、これぞEARという魅力を堪能することができた。

クナツパーツプッシュ指揮『ワグナー…神々のたそがれ』は、甘美な弦楽器群の色艶と、空気をぶるぶる震わせるコントラバスの重低音にうっとり聴き惚れた。そして『ボビノ座のバルバラ』だが、彼女の声は概して一本調子になりやすく、再生は実のところそう簡単ではない。しかしこのフォノイコライザーを通ると、歌声がこんなにもニュアンスが豊かで、血が通った音になるのかと驚くのみだ。コントラバスやアコーディオンの音色の生々しさも信じられないほどで、観客のざわめきや咳込む声までもがリアルだ。

このフォノ入力の音は本当に素晴らしいので、できればフォノイコライザー搭載モデルを購入することをお薦めしたい。

しかしこの艶やかでインテリメートな音を聴いていると、これ以上何が欲しいという気持ちにはまったくならない。ベーシスト、クリスチャン・マクブライドのニューアルバムから、サルサ界の巨人エディ・パルミエリのと格闘技的セッションを聴くと、パルミエリの打楽器的なピアノ奏法はこれぞラテンという感じで、お尻を蹴飛ばされるような熱気とグルーブ感が凄い。音が楽しいと「音楽」になるといふ、これはよい見本である。